

基本方向

交野がこれまで歩んできた道を振り返り、みんなが夢として描いた姿に向かって、これからどのような方向性をもって進もうとするのか、ひと、社会、まちといった視点から見つめ、そのあと、いくつかの基本方向としてとりまとめます。

	1970年頃	1990年頃	いま	これから	将来
暮らし	より多く キャッチアップ	より良く ナンバーワン	自分らしく オンリーワン	ほほど モットイナイ	つながり オスソワケ
社会	もの 階層(大集団)	お金 小集団	情報 個人	知識 ネットワーク	あせ 自在な集団
地域	地域活動	行政活動	多様な活動	協働	みんな活
交野	基盤整備 田舎まち	積極投資 田園都市	財政健全化 住宅都市	資源発掘 星のまち	価値創出 みんなの“かたの”

【暮らし】

追い付け追い越せの競争に明け暮れた反省からか、いま、人は自分らしさを求めるようになっていきます。自分らしさを見つめた先には、自分に合ったほどよい暮らしとともに、社会の一員として、つながりを大切にしたい暮らしを目指していきます。

【社会】

いま、知識やネットワークが大切にされる社会となっていますが、これは離れてしまった社会と個人のつながりへの不安からくるものかもしれません。社会が、個人にしっかり目を向け、汗をかき、生命感があることを大切に、目的に応じて自在に集団を生みだしていくようになります。

【地域】

地域のことを行政だけに任せることのないよう、多様な活動が地域に生まれてきています。これからは、こうした活動を中心として課題を共有し、担い合う協働の環境づくりを進め、やがては、暮らしと地域が密着した、みんなが地域を営んでいくような、“みんな活”を創出していきます。

【交野】

交野市は財政の健全化のため、これまでのまちづくりを見直していますが、縮小が衰退とならないよう、まちの資源を改めて見つめなおし、本来持っている力を活かすことに努めます。みんなの力で、あるものを活かし、つないで、新たな価値を創出していき、みんなの“かたの”を目指します。

“かたの”の経営

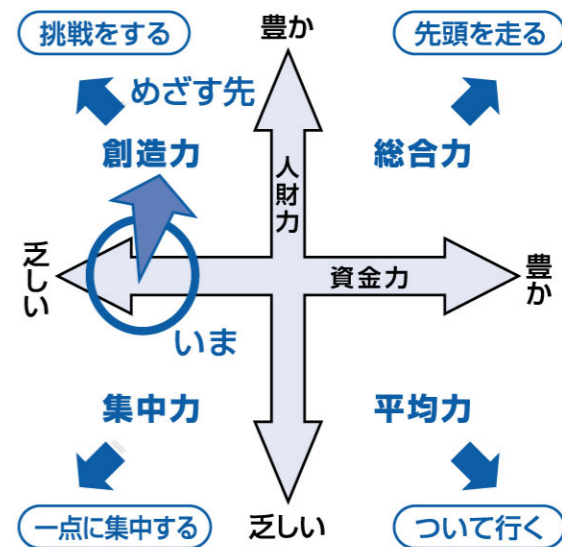
従来の価値観では、まちづくりにおいては公正公平に、あらゆる施策において、均衡を図り、他市と同じく投資していくことが求められていました。しかし、まちごとに多様な特徴があり、条件は異なります。“かたの”が価値のあるまちとなるためには、自らもっているものに合った、ふさわしいあり方を求めることが大事と考えます。

交野はもともとお金のあまりないまちですが、市民活動は盛んで、地域コミュニティも比較的良好に維持されています。

今後は、こうした人の力をつないで、あるものを使う身の丈に合った楽しい小さな創造を繰り返して、やがては大きな力となるような経営手法をとって“かたの”を営んでいくことにします。

そのためには、対話を重視し、開放的で自発性豊かなスピード感のある挑戦をみんなが楽しむことが必要となります。この基本構想をもとに意識を大きく転換して、新しい経営感覚をもって進みます。

＜あるものを活かす経営＞



人口

人口の将来推計では、少子高齢化は更に進み、人口も横ばいから減少へと転じていきます。この傾向は、市税収入などの歳入減、福祉対策などの歳出増といった影響が想定されます。また、一般に、人口減少は活力が弱まるともいわれています。

人口減少は全国的な傾向で、交野だけがかつてのような人口増を目指すといった施策展開は困難なことですし、長い時間のかかる問題です。

こうした状況を受け止めつつ、“かたの”では人口をこれまでの「量的な」とらえ方だけではなく、「質」や「時間」という視点から、活力源とすることをめざします。

＜人口の推移(推計)＞

